

授業概要

本授業は東アジア文学、その中で最も長い歴史を有する中国文学とその周辺地域である朝鮮文学を中心に取り上げる。中国文学については東アジア最古の文学である『詩経（しきょう）』に始まり、次いで二千年余りに及び王朝期を経て、中華民国そして現在の中華人民共和国に至るまで、朝鮮文学については古代・近代・現代の三期に分けて、詩歌の誕生と発展から小説の隆盛に至るまで、それぞれの重要な人物・作品・事象について講義する。単なる知識の詰め込みではなく作品鑑賞も行うことで、そこにあらわれた文学の重要な特徴について考えるとともに、広く東アジア文学の世界を知ることが目的とする。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（本授業の進め方/東アジアについて/中国・朝鮮文学について）
第 2 回	『詩経』と『楚辞』——東アジア文学の源流
第 3 回	「宦官」と文学——司馬遷『史記』を中心に
第 4 回	「文学」の確立——文学者としての曹操父子
第 5 回	貴族の抬頭とその文学——「五言詩」を中心に
第 6 回	唐詩の世界——李白と杜甫
第 7 回	「白話小説」の登場——明の「四大奇書」
第 8 回	「白話小説」の隆盛——曹雪芹『紅樓夢』を中心に
第 9 回	「文学革命」の開始とその展開——雑誌『新青年』を中心に
第 10 回	20 世紀の中国文学①——魯迅と茅盾の小説
第 11 回	20 世紀の中国文学②——巴金と老舎の小説
第 12 回	21 世紀の中国文学——莫言と閻連科の小説
第 13 回	朝鮮半島の古代文学——詩歌の変遷
第 14 回	朝鮮半島の近代文学——散文から小説へ
第 15 回	朝鮮半島の現代文学——政治社会と小説
第 16 回	定期試験

到達目標

受講生は、古代から現代までの中国・朝鮮文学の歴史を理解し、それぞれの文学史上の重要人物や個別の作者についての知識をもち、作品の重要な特徴について説明することができる。

履修上の注意

外国文学の授業であるが外国語の知識の必要はない。

予習・復習

予習については、上記授業計画のトピックを調べておくこと（例：第1回「東アジア」/第2回『詩経』）。復習については、授業時配布プリントと受講生各自のノートをもとに、重要事項をピックアップしてその内容をまとめておくこと（例：第1回「中国・朝鮮文学」の特徴や共通点について）

評価方法

学期末試験 70% 授業内テスト 20% 受講態度 10%

テキスト

毎回プリントを配布して授業を進める。